

「新しい御霊によって仕える」

～古い契約に騙されてはいけない～

ローマ書7章1～21節

■ 距離が近いほど影響を受けやすい

なぜ人は、振り込め詐欺の被害に遭うのでしょうか？多くの人は『これはおかしい。』と思っているけど多くの人が騙されて払ってしまう。その原因は、電話の距離にあるそうです。なぜかという、人にはパーソナルスペースというものがあります。私たち人間は、45cm、120cm、350cmくらいで距離感を保っています。図書館で広いテーブルに女性の方が1人で座っていて、空いた席があるにもかかわらず、隣に座ると約95%の女性の方が10以内でその席からどくそうです。距離が近すぎるがゆえに目の前におきている出来事よりもその人の言葉の方が入ってきてあなたの脳に影響を与えます。私達は、その範囲で起きている出来事に対して、本来入ってくるはずでない情報が入ってくると、とても影響を受けます頭では、おかしいと思っているのですが、信じてしまいます。

■ 私達はなぜ自分を責めるのか？

ローマ書1章から7章までは、義人はいないと書かれています。では、私達はなぜ自分を責めるのか？これは律法のせいで、いいことでもありません。しかし、悔い改めというのは何となく悪いことをして『ごめんさい』って膝まずき涙を流しているような雰囲気ですが、聖書でいう悔い改めの意味は、後悔ではありません。神様がいう悔い改めは、【メタノイヤー】という言葉ですから、【方向転換】なのです。私たちは決まった事をやることで安心していきます。過去を遡って自分の人生が間違っているのであれば、変わらなければいけないと思って後悔するのはストレスです。聖書は、今まであなたが苦しくて迷ったのであれば、『迷わない真直ぐな道に戻ってこい』と言っています。だから神様は、律法を与え私たちが間違っている事を知る為です。

■ ①法・ルールに縛られる人生 大好きなイエスキリストに結ばれた人生

聖書が死になさいと言っているのは、自分に死になさいと決断しなさいと言っているだけで、自分自身が自分自身を殺すことは出来ません。死ぬということは、恵みです。なぜ死ななければいけないのか？それは、古い主人から脱出する為です。古い夫がいましたが、今は新しい夫に結びつけられました。それは、イエスキリストだと書かれています。古い律法が支配して私達に恐怖心をもたらします。罪を犯している自分はダメだと思います。そうなる時は一時大事ですが、そうやっていくプロセスがあります。クリスチャンでない方はずっと後悔して生きています。その後悔が自分に向けばいいですが、他人に向いています。それが一番楽な解決です。私達の人生の後悔を終わらせて新しくイエスキリストの奥様のような為の秘訣はローマ書が全てなのです。今まで自分の努力でなんとかしようとして生きてきた人が、変わる瞬間です。私達は、血の細胞ひとつや、皮膚でさえ自分で生やすことさえできません。なにも出来ないにもかかわらず、一番難しい人生を、自分で変えようとしています。頑張ること一つです。決断だけです。後は恵みなのです。決断するとイエスキリストと一緒に生きてくれ、決断すると一緒に進んでくれます。私達はいつもこの決断することをやめてしまいます。だからうまくいかないだけで、労力をどこにかけているのかというと、頑張る事にかけています。

■ ②法は罪を示し、罪の深さを示す。 また罪を犯させる。律法を示されると 示されて真逆を行う。

ナアマン將軍は、ヨルダン川に7度浸せといわれました。これが、神様が彼に示された約束だったのですが、彼は嫌だと言いました。わざわざ長旅をしてきたのに予言者は出てこず、迎えてくれるかと思っていたのに言葉だけを、言われた事でプライドを傷つけられたと感じていました。私達はルールに縛られているので、ルールを守らないことが許せなくなります。そのルールで自分が生きている事を相手に強要したいのです。何かに極端になってしまいます。それが何を起こしているかそれは、戦争です。神様は、私達にルールだけ与えましたか？神様が与えた約束は、ルールではなくて、私達が幸に生きる【ガードレール】だったのです。神様はしてよい事を教えたのではなく、してはいけないという事を教えました。全ての事は愛によって行いなさい。その代りこの

いくつかの事は絶対にしてはいけませんと言ったのです。最初に与えたルールは、園の中央にある木の実だけは食べてならないというルールでした。これが、神様が与えた【ガードレール】だったのです。教会は、そういう所でなければいけません。絶対にしてはいけない事が明白になっています。それは、愛でない行動はしてはならない。愛に基づいて語られても、律法に生きている人は、真逆の行動を起こすのです。これが危険なのです。教会は愛でなければなりません。神様のメッセージは愛に基づいて行われます。もし私達が律法に生きているとすれば、このメッセージまで反発が起きます。神様の愛のメッセージが律法の様に聞こえてきます。思春期の子供達にどう映るのでしょうか？どうやって映るか彼等はよく分かっています。思春期の子供達に必要なのは、肉親でないお父さんが必要なのです。教会がイエス様になっていけば素晴らしいです。だからそれをそれと認めていかなければいけません。教会にとって神様が一番大事にしているのは、コミュニティです。コイノニア(交わる場所)肉親じゃない人が、ここに居るからいいのです。私達は、少しでも聖書のルールに近づこうとしています。聖書のルールとは、絶対にしてはならない事の大前提があるわけです。愛のうちに行えば全ては美しい。安息日に食べたてそれが愛ならばよい。安息日に羊を捜しに行ってもよい。それが愛ならばいいんだ。だけど絶対にしてはならない事は人を殺す事。あなた以外の神がある事。人の物を盗む事。それはいけない事だと伝えていきます。それは、【ガードレール】なんです。人は神様と一緒に居て隣人を愛さなければなりません。だからそこを超えてはならないという神様が与えたルールです。律法はあんたことをしたと裁くのです。神様は、お前を裁くのではなく、帰って来いと言う方です。ルールという私達が使う裁きの目線と神が使うその人の為にする【ガードレール】のメッセージは、ここが違います。

■ ③もう一度キリストの御側に

私達は、自分だけ幸せになったので、全部良くなったと信じている。自分だけハッピーになった。茨が咲いている所であなたが突然ひまわりになったのです。周りは、あなたに対して棘だらけです。そこで風が吹けばあなたの体は揺られ刺さされます。そこで私達はうまく行かないと悩んでしまいます。ここからが、神様の出番です。この時、本質の変化が起きるのです。その為に、私達はそこで咲かなければいけません。私達が、幸せになったらそれを保たなければなりません。神様と一緒にいれば保たれています。保っていれば神様はそこで、本質の変化を葡萄酒のように変化を起こすことが出来ます。茨の中であなたがひまわりになったのであれば、神様が働くように祈る道を歩まなければなりません。ナアマン將軍は、しもべに言われました。もしあなたが、難しい事を言われたらやっただけでしょう。7度ヨルダン川に浸るだけで、あなたのらい病が治るのなら7回くらい浸せばいいじゃないですか？と言われたのです。しかし、ナアマン將軍は、古い価値観で自分のプライドを傷つけられたと感じて、従おうとしませんでした。でも神様はそこで言われました。私に祈れ。あなたはそこで咲いてそこで私を見ていなさい。そして私に祈りなさい。と言われました。でも私達は納得がいけないのです。私達は自らの細胞一つも作れません。そんな作れない私達が隣の人の心を変えられません。神様がその人に働いてくれない限り奇跡は起こりません。だからこそ神様に祈ると神様はあなたにせよという事を教えてくれます。神様が全てをやってくれますが、その管になるのは、私達です。私達が示された事をやればうまくいきます。それを選ばなければなりません。神様がせよと言っていることを選ばずにうまくいく道はありません。私達は死んだので通り良き管になります。だからもう一度十字架を思いだして下さい。神様がイエス様に言った事は、十字架に架かって死ねと言われただけです。だからイエス様にとってはそれを取り除いてほしいと願いました。しかし、イエス様は願ったけれど主の御心通りでいいと言いました。従ったのです。クリスチャンが唯一しなければいけない事は、神様に祈った時、主がせよと言われた事をする事です。

(要約者:岡本 英樹)

(2019年6月30日)